

ハッピーデザイン の Happy は、回路基板ができあがって始まります。

できあがった(試作)基板に部品を実装(Mount)する時は、改良図のようにKHLCシリーズと呼ばれる**パワフィルタ**も、元々最初から設計図にあった**Inductor**や**Capacitor**も全て実装してください。これで部品実装は、終わりです。

EMI 測定の結果に、満足いただけましたか？

これではまだ、**EMI** 対策は終わりにはできません。これからが**ハッピーデザイン** の本番です。

今度は、一カ所ずつ**パワフィルタ**を取り外して下さい。

注意することは、一度に複数の**パワフィルタ**を取り外さないことです。

必ず一カ所ずつ、取り除いて下さい。

そして、その度に、**EMI** 測定の画面を確認して下さい。

続けるうちに、**パワフィルタ**を外せない、外すと**EMI**が大きく変化する場所が、判明します。

そこが、あなたが、今後も注意をして設計しなければならない**問題の箇所**であり、**半導体**です。

ここの回路には、**パワフィルタ**をそのまま外さずに、採用してください。

最終的に、実装基板から全て**パワフィルタ**を外すことができた方、あなたは、**EMI** 対策のプロです。KRFM としましては、これ以上お手伝いをする所はありません。

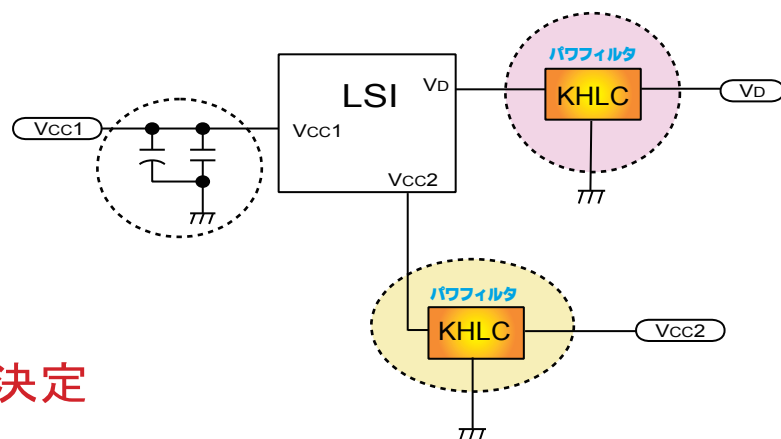
通常は数個の**パワフィルタ**が回路基板に残ることになります。

これで(試作)回路基板の完成です。

もっと、コスト低減が必要ですか？

でしたら、**パワフィルタ**の周りの**Inductor**や**Capacitor**は、取り除くことができます。

<図3>



最終回路の決定